

日本大学学術助成金研究課題

『大学地域連携研究の学問的基盤と人材育成に関する研究

ースポーツ教育事業の検討からー』 フォーラム

## スポーツ指導者の質保証を巡る諸問題 ー競技スポーツ，学校部活動，地域スポーツー



日時：2024年6月8日（土） 14：00～15：30

場所：日本大学文理学部本館1階 ラーニングcommons

挨拶：兼板佳孝氏（日本大学研究担当副学長）

登壇者：

鈴木 理氏（日本大学文理学部，日本大学文理学部教師教育推進委員会委員長，

日本スポーツ教育学会監事）

「スポーツ文化の価値享受と創造を誘う指導者の見識」

青山清英氏（日本大学文理学部，日本コーチング学会副会長，大学地域連携学会常務理事）

「スポーツ指導者の基底能力である身体知能力の養成における課題」

森 健一氏（武蔵大学リベラルアーツアンドサイエンス教育センター，

日本陸上競技連盟指導者養成委員会幹事）

「地域におけるスポーツ指導者養成の現状ー日本陸連の考える指導者養成ー」

久木田謙介氏（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団，

JPPC 日本公共スポーツ施策推進協議会代表幹事団体）

「学校部活動の地域移行をふまえた地域スポーツの振興」

司 会：近藤克之氏

（日本大学スポーツ科学部，一般社団法人 つながりラボ世田谷 スポーツ教室 講師）

指定討論者：小野 力氏（目黒日本大学中学校高等学校）

原 怜未氏（日本大学スポーツ科学部，日本水泳連盟 OWS 委員長）

後 援：大学地域連携学会 日本コーチング学会

## 【本フォーラムのねらい】

学校部活動の地域移行、競技スポーツにおける暴力や人権侵害の問題あるいはデジタル機器の発達にともなう体育、スポーツのICT化など体育やスポーツには取り組むべき様々な課題が山積しています。本フォーラムでは、すべての体育、スポーツの場面で重要な役割を担うスポーツ指導者に求められる資質・能力について、現代における体育、スポーツの諸課題と関連づけながら考えていきたいと思えます。

## 【各登壇者の発表要旨】

### 鈴木 理氏（日本大学文理学部）

人間が人工的に拵えたスポーツは、その誕生から今までに大きく様変わりし、さらに今後も変わりゆくことは確実なので、常に現在進行形であると考えられます。本フォーラムでは、この「暫定版」としてのスポーツの指導を巡って、文化の伝承・発展・創造を媒介する指導者にはどのような認識が求められるのかを、指導者養成プログラムにおける「指導内容開発」にスポットを当てて考察します。

### 青山清英氏（日本大学文理学部）

「できない」運動が「できる」ように、あるいは「できる」運動が「よりよくできる」ようになるためには、運動遂行者が「いつ」「どこで」「なにを」しようとしたのかを「見抜く」ことができずに運動の指導は成立しません。本フォーラムでは、このようなスポーツ指導者に求められる基底的能力である運動感覚的能力の養成における課題について問題提起いたします。

### 森 健一氏（武蔵大学リベラルアーツアンドサイエンス教育センター）

スポーツ指導の現場では、指導者資格を保有することの義務化が急速に進んでいます。地域スポーツの在り方が多様化する中、優れた資質能力を備えた指導者が競技者を支援することが求められています。陸上競技を例として、地域における指導者養成の現状を踏まえ、資格制度に関わるシステムの構築とこれからの指導者養成について考えていきます。

### 久木田謙介氏（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団）

学校部活動の地域移行に伴い、中学生等のスポーツ環境は大きな転換を求められています。文部科学省を主導に教員の働き方改革を推進する一方で、今後は地域で部活動が果たしてきた役割の維持・充実を図らなければなりません。世田谷区では、モデル事業として合同部活動や学校への講師派遣、スポーツ人材バンクの設置等を進める中で見えてきた課題を考察していきます。

